

2021年度 後期 漢検 漢字文化研究所 連続講座

第8弾

聴講料(入館料込み)
一般 各回 1,500円
学生 各回 1,000円
年パスお持ちの方
一般 各回 800円
学生 各回 600円

漢字指導のこれまでとこれから

学校教育の中で、漢字はこれまでどのように指導され、学習されてきたのでしょうか。また今後、漢字学習はどのようになされていくのでしょうか。学校に一人一台ICT機器が配布され、教育が大きな転換点を迎えているいま、さまざまな側面から漢字指導について考えてみます。



開講日

テーマ

10/31
(日)
※10時
開始

書字の機能 – 研究の現在と教育への活用 –

手で文字を書く技能(書字技能)を発揮するためには、認知的、運動的、知覚的要素を複雑に連動させる必要がある。IoTが進展する現在なお、児童にとって、書字技能は、学校生活を快適に過ごす上で、かなり大きな意味を持つ。国内外の研究事例を紹介しつつ、これからの日本の書字教育を考える。
長崎大学 教授 鈴木 慶子



11/28
(日)

漢字指導の要諦

国語教育における漢字指導においては、漢字学力をどのように捉え、どのような内容(字種など)を、どのような方法で指導し、どのように評価すればよいのかについて、戦後の漢字指導の展開を踏まえながら語ります。
鹿児島国際大学 教授 副学長 千々岩 弘一



12/19
(日)

学習教材から見た漢字学習

近代以降、どのような教科書や補助教材を用いて漢字が学習されてきたのでしょうか。漢字ミュージアムの所蔵品とともにご紹介します。
漢検漢字文化研究所研究員 小林 雄一 / 田中 郁也



1/23
(日)

読み書きに困っている子どもたちとUDフォント

～UDデジタル教科書体の開発背景とデザイン～
UDフォントの開発者が、読み書きにつまずく子どもたちの現状を交え、ICT教育にも効果的な「UDデジタル教科書体」の開発背景やデザインについて話します。
株式会社モリサワ 公共ビジネス課 高田 裕美



2/20
(日)

漢字教育はどこに向かうべきか

情報デジタル化の波は、漢字に対する学習者の意識変容を生み出している。活字主流の生活の中で漢字教育はどこに向かうべきか、参加者とともに考える。
奈良教育大学 教授 棚橋 尚子



3/13
(日)

漢字教育に望むこと

漢字は魅力をもった文字だが、つまらないと思えば難しさから学習意欲が失せる。どういう心構えと教え方がよいのか。自身の経験と大学生らの述懐に基づきお話しする。
早稲田大学 教授 笹原 宏之

第1回(10:00~11:30)を除き、時間は 14:00~15:30

ご自身の都合に合わせて、ご興味のあるテーマのみの受講ができます。

※新型コロナウイルス感染予防の観点から、受講者の定員を30名(先着順)とします。
※当日の講座の様子を録画し、後日動画配信サイトにて配信します(有料)。



漢検 漢字博物館・図書館
Japan Kanji Museum & Library

申込み・問い合わせ先
電話:075-757-8686
www.kanjimuseum.kyoto